# 《きっずぽけっとミニ通信　NO. 231　2024 年 10 月発行》

今年は例年を上回る暑さの夏でしたが、虫の音や木の実の色つきに秋を感じるようになってきましたね。秋といえば、読書の秋！
今回は、子どもの絵本**『読み聞かせから育つもの』**についてお伝えしたいと思います。

保育園でも家庭でもよく見られる姿ですが、子どもは気に入った絵本に出会うと、何度も何度も繰り返し「これよんで♪」と持ってきます。大人の方がもう飽きてしまうくらい、何度も喜んで繰り返し聞いています。
それはどうしてでしょう？
**『本を読むということは、**話の筋を読むことではない。お話が分かったところで終わりではない。同じ本を読むことで**「知る」ということから「思う」ところへの深まりがある』**（「げんき」No.200 エイデル社・黒田美恵氏）
繰り返し読んでもらうことで、心の満足感が生まれ、それが「考えること」や「学び」に繋がっていくのでしょうね。

また、赤ちゃんは本を読んでもらう中で、**「ことば」の獲得**もしていきます。ではデジタル絵本を繰り返し聞くのと、対面で大人から読んでもらうのとでは違いはあるのでしょうか？

『アメリカの有名な研究で、赤ちゃんと遊びながら絵本を読み聞かせた場合と、テレビを通して読み聞かせた場合を比較したところ、前者の方が母国語の聞き分けができるという結果が得られました。つまり、赤ちゃんが言葉を覚えるためには、一方的な語りかけではあまり意味がなく対面してやりとりすることが必要だということです。
絵本を読む時には、赤ちゃんの表情を見て、その様子に合わせながら繰り返し読んだり、ゆっくり読んだりすること。**気持ちを通じ合わせたやり取り**が何よりも大切です。』（「ことば力と思考力」今井むつみ氏）

日本人が昔から大切にしていた“間”は、これからも大事にしていきたいですね。（今月の担当　ワーカーF.N）